

第20回、三次駅伝の思い出

〇〇 〇〇

陸上とは無縁だった私が、どこをどう間違ったか駅伝に駆り出されたのが、三次駅伝でした。当時は11月3日の文化の日開催で、スタートは三次市役所。1区の選手は、駅前で左折し、駅前通り、十日市中央通り、三次町の中心部を駆け抜け祝橋で第1中継、以降、栗屋・西三次・酒屋・神杉・和知・四拾貫を走るルートで、ゴールは現在、親水公園となっている旧三次陸上競技場。私が受け持った区間は、三次東インター出口にあるコンビニあたりから、八次の才覚寺までの第7区2.6kmでした。出場が決まるや否や、仕事を終わってからの“付け焼刃”の夜間練習。バイクにまたがる職場の気楽な同僚の容赦ない檄。迎えた当日は、三次特有の霧の中の激走。無我夢中の10分。それがきっかけとなり恒例のように三次駅伝に出場しました。家庭を持ち、幸せ太りのため、現役を引退、今は、一駅伝ファンとして市の広報誌に掲載される情報を拝見させていただいております。気がつけば70回、これまでの大会を繋いで来られた歴代の関係者の皆様方に改めて敬意を表します。コースも競技場内で行われているとのこと。知り合いのお孫さんが出場するとのこと、久しぶりに公園内で大会を観戦しました。公園内コースでは、選手の息遣いが伝わってきます。50年前、誰もいないコースを走るのは雲泥の差。これも時代かと。三次駅伝が71回へ、そして80回記念大会へと繋がっていきますこと祈念しております。

写真等